営農情報

水稲

～健苗育成に向けて、適正な薬剤の施用や温度管理等で種子消毒・催芽を行い、播種作業に備えましょう～

塩水選 ～充実した種子の選別～

○塩水選は発芽や苗立ちなどを高め、充実した種籾を選別する重要な作業です。また、塩水選の比重が重ければ重いほど、発芽・苗立ちが良くなることは、研究で証明されています。この場合の比重とは、食塩水の水と塩に対しての種籾の重さで、比重が重い（塩が濃い）と種籾が浮き、比重が軽い（塩が薄い）と種籾が沈みます。たとえば、うるち米を塩水選にかけた後、その食塩水でもち米を塩水選にかけると、浮くもち米が多くなります。これはうるち米の比重が、もち米より重いからです。塩水選の比重の基準は、表のとおり、うるち米が1・13で、もち米が1・08です。

種　籾	比　重	食塩量（水10ℓあたり）
うるち	1.13	2.1kg
もち	1.08	1.2kg

※塩水選後は、よく水洗いして種籾から塩分を取りましょう。

注意：ＪＡから購入の種籾に関しては、比重選を行っておりますので、塩水選の必要はありません。

種子消毒 ～種子につく病害の一掃～

○種籾の表面には、様々な病原菌がついています。籾が発芽する時に、病原菌も繁殖し始めるため、種子消毒は必ず行いましょう！

○いもち病、ばか苗病、ごま葉枯病、細菌病対策としてヘルシード乳剤、スターナ水和剤等で種子消毒します。

○今年の消毒剤吹き付け種子（採種ほ産種子）は、ヘルシード乳剤単剤となっており、もみ枯細菌病・苗立枯細菌病対策としてはスターナ水和剤で追加防除します。

○無消毒種子を消毒する場合は、スポルタックスターナ剤を使用します。

○湿粉衣、高濃度浸漬は低濃度浸漬より効果が安定して高いのでおすすめです。

浸漬 ～発芽を揃える～

○種籾に充分水分を吸収させ、発芽揃いを良くするため、2週間以内を目安に行いましょう。

○浸漬中の水温を10℃程度に保ち、水の入れ替えは3日目から1日おきに行い、その際上下の置き換えも行いましょう。

※浸漬期間が長くなればなるほど、水や種籾が腐りやすくなりますので、水替えや上下の入れ替えはこまめに行いましょう。

催芽 ～温度を高め発芽へ～

○浸漬した種籾に温度を加え、芽がハト胸状態になるまで行いましょう。

※芽を伸ばし過ぎると、折れやすく出芽が不揃いになるので、注意しましょう。

床土の準備

使い方	使用薬剤	散布量	使用回数
床土と混和	タチガレエース粉剤	6～8g/箱	1回

※タチガレエース粉剤の床土混和は、播種時にダコニール1000またはダコレート水和剤を灌注する場合は、播種5日前までに作業を済ませます。
※床土にタチガレエース粉剤を使用しなかった時は、播種時にタチガレエース液剤を灌注します。
※育苗に好適な床土は、pH5程度であり、排水性、保水性に優れたものを準備します。

播種

○箱1枚あたり、催芽籾で120g程度播種しましょう。

○厚播きにすると、徒長軟弱苗になりやすく、立枯病等に弱くなり、田植え後も初期生育不良や代枯れしやすくなります。

○田植え予定日から逆算して、播種する日にちを決めましょう。